

きびしい残暑がすぎたかと思えば、冷たい風が吹き始め、季節は秋を通り越して、すでに冬の様子を見せはじめています。

さて、今号では市内で新たに発見された“千代東浦遺跡”などの発掘調査成果に加え、すでに開催している埋文センター秋の特別展の模様をお伝えしたいと思います。そして、11月23日(火・祝)に下之郷町で新たにオープンする“下之郷史跡公園”について、その施設の内容も紹介したいと思います。

図1 掲載遺跡位置図→

● 発掘調査の成果 ●

ちしろひがしうら (1) 千代東浦遺跡(第1次調査)

千代町字東浦地先で、宅地造成工事にともない、平成22年9月14日から30日にかけて、調査面積350㎡を対象に、発掘調査を実施しました。今回の調査地は、これまでの遺跡範囲外でありましたが、事前の試掘調査により遺構・遺物が見つかったことから、新たな遺跡として認知されたものです。

調査では、溝を3条検出しました。溝からは、わずかながら土器が出土しており、SD-1・2は古墳時代前期に属するものと考えられます。SD-3は、遺物



① 調査地全景 東から

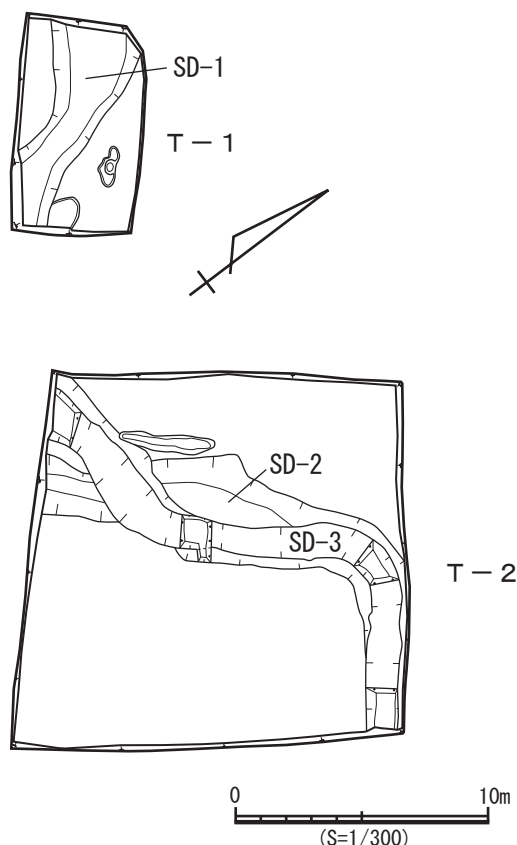


図2 千代東浦遺跡 遺跡全体図

がほとんど出土しなかったため時期は不詳ですが、SD-2 を壊して掘削されていることから、少なくとも古墳時代前期以降のものと考えられます。調査対象地は、古墳時代前期のものとされる栗東市の“^{かめづかこふん}亀塚古墳”に近接しており、今回見つかった古墳時代の溝群も、これに関わる遺構である可能性があります。（木下）

^{ふるたか}(2) 古高遺跡（第 25 次調査）

今宿四丁目字八反田地先において、集合住宅建築に伴い約 210 m²を対象に、平成 22 年 10 月 6 日から同年 10 月 19 日までの期間で発掘調査を実施しました。

調査対象地周辺では、平成 12 年度から平成 15 年度にかけて、区画整理事業に伴い発掘調査を実施しており、その際には、旧河道から縄文時代晩期のケヤキ、弥生時代後期の大溝、そして古墳時代前期の大溝からは“^{こと}琴”をはじめとする多量の木製品、川エリ跡などが発見されています。今回の調査地は、琴が出土した地点と隣接していることから、古墳時代前期の大溝の延長や、木製品などの遺物が出土することが想定されました。

今回の調査では、隣接地でも確認されている古墳時代前期の大溝、^{たてあな}堅穴建物、^{ところ}土坑などを検出しました。大溝 SR-01 は、大半が調査対象範囲外になるため、全容をみることはできませんが、深さ 1.5 m を測り、幅は隣接地の調査から約 8 m 前後と推定されます。また、弥生時代後期の大溝を古墳時代前期に再度、掘削し直していることが隣接地の調査と同様に確認できました。そして、SR-01 からは、板状や棒状の木製品が数点出土しており、中には“^{ぼうしよくぐ}紡織具”と考えられる製品もみられます。そのほか、^{しゅうへきこう}堅穴建物 SH-02 からは、“周壁溝”



② 大溝 SR-01 木製品出土状況



③ 大溝 SR-01



④ 堅穴建物 SH-02



⑤ 調査地全景 東から

とみられる溝や土坑で炭化物が出土しています。この建物の年代は、弥生時代後期～古墳時代前期と考えられます。隣接地に調査においても、竪穴建物が確認されており、同時期の竪穴建物が周辺に点在していたと考えられます。

今回の調査地周辺では、これまでの調査において、弥生時代後期の^{さいし}祭祀関連の遺構や古墳時代前期の琴などが確認されています。祭祀に関わる遺物が出土していることは、この周辺で何らかの祭祀が行われていたことも考えられます。遺跡の中心となるのは、今回の調査地より北側と考えられますが、今後の調査の進捗によって、この遺跡の詳細や重要性が明らかになるものと思われます。（平井）

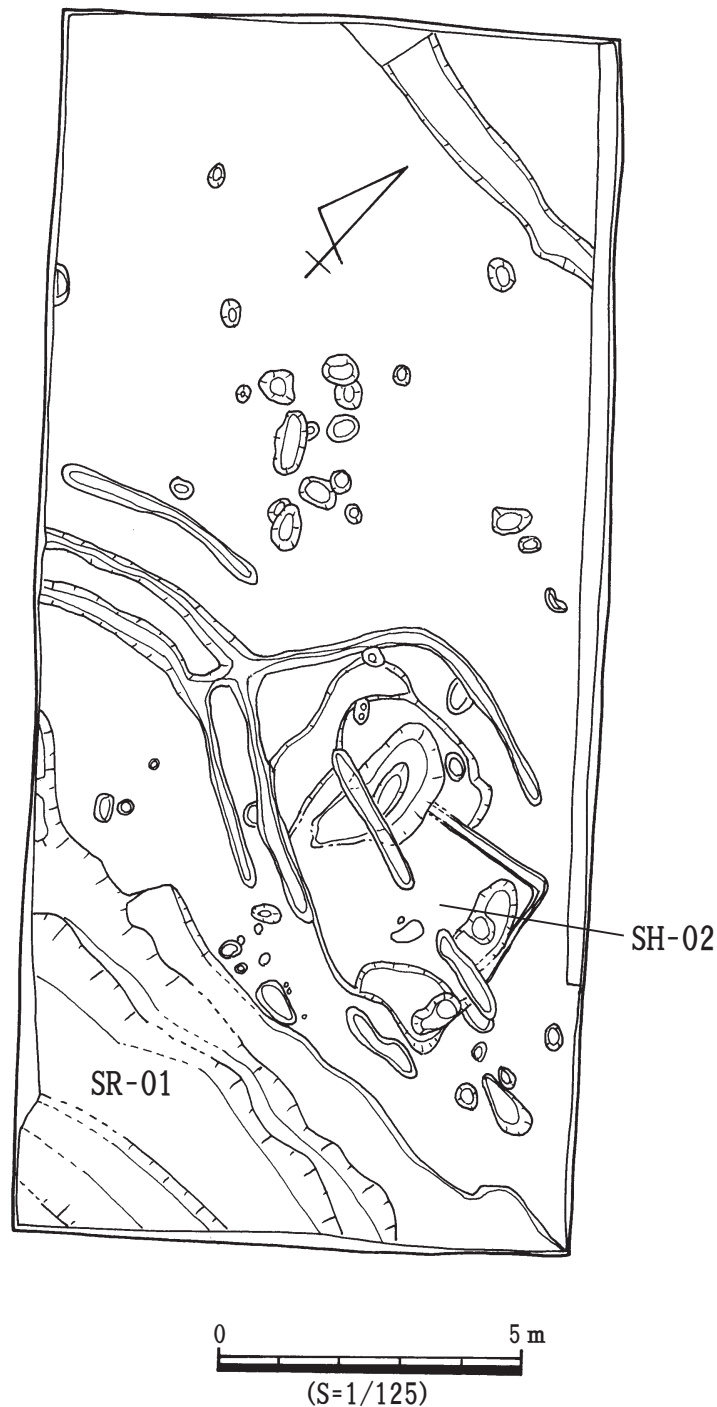


図3 古高遺跡 遺跡全体図

● いよいよオープン!! 下之郷史跡公園 ●

しものごうしせきこうえん

今月の11月23日(火・祝)に下之郷史跡公園がオープンします。

下之郷遺跡は、弥生時代中期、今から約2,200年前の集落遺跡です。下之郷遺跡の特徴は、集落が、幅が広く深い溝で取り囲まれていることです。これを「環濠集落^{かんごうしゅうらく}」といいます。これまでの調査で、少なくとも3重の環濠に囲まれた多重環濠集落であることが判明し、環濠や建物跡のほかに、多くの貴重な遺物が出土しています。これらの調査成果は、弥生時代を考える上で非常に重要なものであることから、平成14年に国史跡に指定されました。

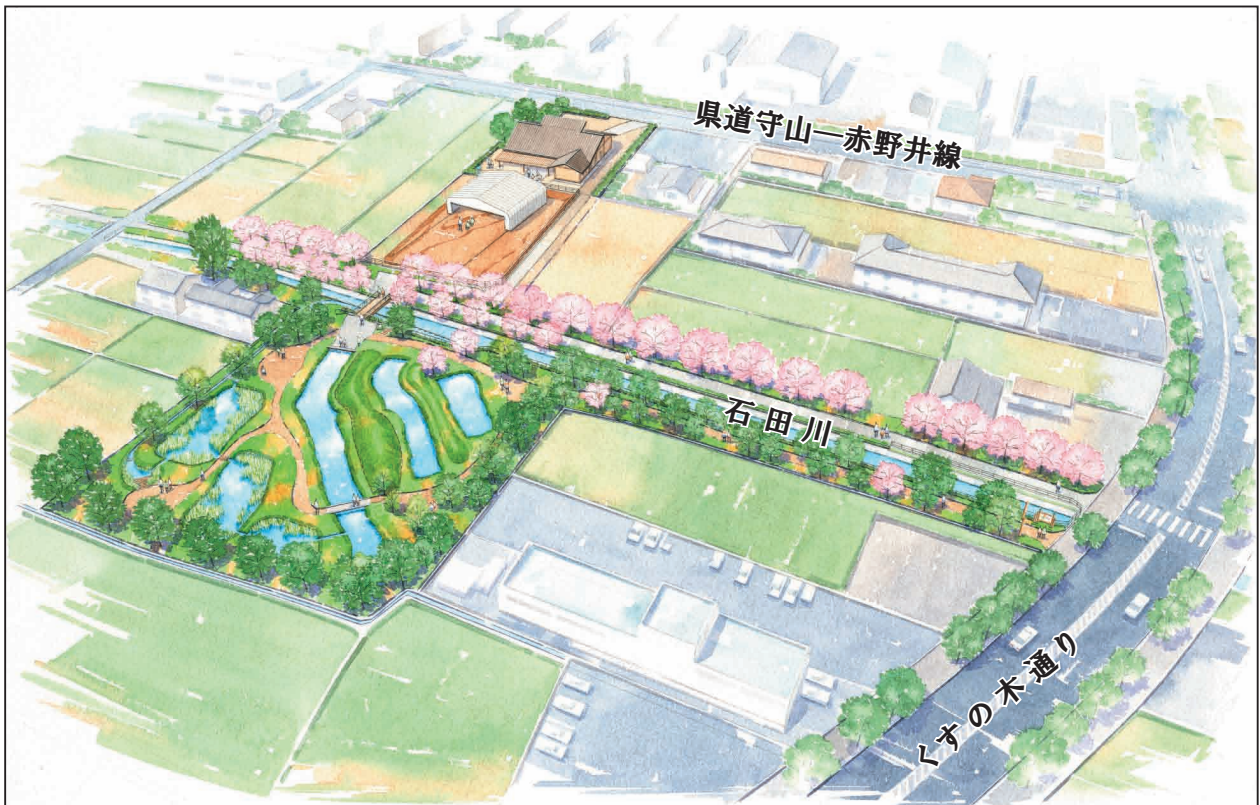
オープンする公園内には、環濠の一部を復元した“復元環濠”や、貴重な遺物の数々を展示したスペースもあります。また、かつての稲作を体験する“体験水田”や、環濠の調査をするための“環濠調査施設”など、一般の方々に下之郷遺跡の重要性を、観て・体験して・楽しみながら知っていた



環濠復元施設の様子



発掘調査で見つかった環濠の一部



下之郷史跡公園の様子

だく施設を設けてあります。

“守山市の宝”である下之郷遺跡を、この機会にぜひご覧になってください。

問い合わせ：文化財保護課

077-582-1156(直通)

下之郷史跡公園 しものごうしせきこうえん

所在地：守山市下之郷町一丁目12番8号

開館時間：午前9時から午後5時まで

休館日：火曜日（火曜日が祝日の場合は開館）

祝日の翌日・年末年始

入館料：無料

下之郷史跡公園平面図



● 埋文センター 秋季特別展のお知らせ ●

埋文センター秋の特別展の季節がやってまいりました。今年度は、～守山市立埋蔵文化財センター 30 周年展『服部遺跡^{はっとり}の発見から現在まで』～ をテーマとしています。埋文センターが開館して 30 周年であることから、その契機となった“服部遺跡”を起点として、現在に至るまでの市内の貴重な発掘成果をまとめて展示いたします。また、今回の特別展に合わせて、古代に使用されていた“槽^{そうづく}作りの琴”を復元し、展示しています。みなさまもこの機会にぜひ、市内に眠る重要な遺跡の数々をご堪能ください。

また、“小菊盆栽展”を埋文センター内で開催しております。こちらも併せてご鑑賞ください。

開催期間： 平成 22 年 10 月 30 日（土）から
平成 22 年 11 月 23 日（火・祝）まで
期間中無休



古代の琴
復元試作

～小菊盆栽展～ 同時開催中 （埋蔵文化財センター 展示フロア）

● 埋文センター 秋の体験学習 ●

11 月 7 日（日）埋文センターで、秋の体験学習、「第 1 回受口状口縁甕づくり」を行いました。当日は、12 名の参加者があり、講師にお迎えした、井上淳子先



生（元陶芸講師）の話に耳を傾けながら、熱心に古代の土器作りに励んでいました。みなさんが苦心の末

に完成した土器は、第 2 回の体験で、実際に埋文センターの敷地内で、焼いて出来上がりとなります。

機関紙『乙貞』は、守山市のホームページ（<http://www.city.moriyama.lg.jp>）からも閲覧できます。